［た　よ　り］

山梨県支部だより

三井　静

山梨県透析医会の沿革について順をおって記載します．秋山 仁先生，小林 鴻先生，清水五郎先生，中沢忠明先生それに小生三井 静の5名で会を立ち上げたのは昭和54年3月末でした．5名のうち2名の先生（清水，中沢）がすでに他界されてしまいました．顧問には当時山梨県立中央病院透析室の責任者であられた加賀美年秀先生をむかえました．

会の目的は

① 人工透析に係わる学問的技術的交流をはかる
② 透析に係わる診療報酬体系の研究，調整
③ 透析施設における財務経理面の研究
④ 会員相互間の親睦をはかる

でした．会長は秋山 仁先生にご就任いただいて会が発足いたしました．

会の発展を会員の増員としてとらえますと，昭和56年10月には鈴木斐庫人先生，藤井 伸先生が新たに加わりました．しかし，清水五郎先生が脱会されましたので6名となりました．昭和56年11月には新たに腰塚 浩先生，加藤隆司先生，田中養生先生，三浦克弥先生をあわせて10名となりました．この時点で，都道府県透析医会連合会に入会いたしました．昭和57年4月18日以降の連合会理事会から小生三井が出席させていただきました．

当時からすでに20年が過ぎ去り，現在は日本透析医会の山梨県支部となっております．一時期は活動が停滞しておりましたが，平成6年頃から再出発という形で会の発展がみられました．会員構成と会則を再確認いたしました．会員数は21名となり，発足当時からみると4倍になったので総会は結構活発なものとなりました．平成7年1月の阪神淡路大震災の大災害を経験し，われわれも危機感を持って如何に対応すべきかを皆で考えました．

山梨県は東京には比較的近いものの，交通機関は大災害には弱いことが明白であり，ことが起これば陸の孤島と化することが予測されます．早速，大災害時の透析医療のあり方についての検討がはじまりました．平成9年12月には災害時救急透析医療システム検討委員会を結成しました．10名の委員から構成されております．神戸等の災害地からの透析の対応の報告や，先進地域とされる千葉県や東京都の透析医会のシステムを参考にしながら目下構築中であります．災害時優先電話を各施設が確実に設置することの確認をとり，これは100％達成しております．施設間のみならず患者さんとの災害情報の収集と発信に欠かせません．

山梨県には災害時拠点病院が10箇所決められております．それに関連付けて近隣の透析施設が対応していくことになっております．その中でも山梨県立中央病院が地域中核病院として認められております．災害情報の収集，発信につきましては山梨県透析医会がその中核となっていきたいものと思います．

行政との連携を密にすることが大切との判断から，『災害時に対する血液透析療法の支援についてのお願い』として山梨県知事への要望書を提出し受理されております．山梨透析技師会との連携も強めているところです．透析患者カードの統一，交通手段の確保等早速の対応が待たれるものが多くあります．

わが県の地理的条件からして静岡県，長野県，東京都との連携強化が非常に大切と思っております．ご協力をお願いいたします．

平成10年7月の総会で三井 静が会長に，鈴木斐

山梨県透析医会　会長

庫人先生が副会長に推挙され，それぞれ承認されました．

昨年は，日本透析医会会長の山﨑先生と専務理事の鈴木先生と，前会長の平澤先生に遠路甲府に来ていただきまして，計３回のご講演をお願いいたしました．大変にためになる様々なご教示をいただき有り難うございました．一同心から感謝申し上げております．